

施策評価調書

整理番号 **11**

■ 総合計画(後期基本計画)

政策名	II	環境循環都市
施策名	④	循環型社会の構築

所管部局	所管部局長の氏名
市民部	木村 嘉充
農林水産環境部	石嶋 政博

1 関連する個別計画 **PLAN**

個別計画名称	計画概要	計画年次	計画期間	備考
京丹後市バイオマスタウン構想	有効に活用されず放置、又は廃棄されているバイオマス資源を有効に活用する方策を導き出すために策定。	平成19年11月	平成19年度～平成25年度	他施策の「新しいエネルギーの導入と活用」にも該当

2 施策目的(何を対象にどのような状態にしたいのか・どのような状態に持っていきたいのか)

No.	施策目的	関連する施策方針	
1	農林水産業、商工業、一般家庭等の様々な分野から多種多様な形で発生・存在する地域バイオマスを資源・エネルギー等を積極的に活用し、地域バイオマス活用を軸とした産業振興、地球温暖化防止の地域づくり、自然環境を保全・再生する地域づくり、環境学習・エコツーリズム・市民の環境意識向上を推進する地域づくりを行う。	1	循環型社会環境の整備
		2	循環型産業の育成
2	古紙の再資源化を進めることで、リサイクルの推進とリサイクル意識の向上を図り、焼却処分するごみ量を抑制する。	1	循環型社会環境の整備

3 目標値など

総合計画	めざす目標	指標名	総合計画作成時 (H17)		後期基本計画作成時 (H20)		H23年度実績値 (現状)		目標 (H26)	
			年度	年度	年度	年度	年度	年度		
循環型社会をめざします		リサイクル率	21%	H15	22.1%	H20	18.4%	H23	27%	H26
		環境NPOの数	3団体	H16	4団体	H20	7団体	H23	5団体	H26
		廃棄物系バイオマスの利用率	新規	-	72.9%	H19	72.9%	H19	96.6%	H26
		未利用バイオマスの利用率	新規	-	5.3%	H19	5.3%	H19	36.3%	H26

個別計画	個別計画名称	指標名	説明・備考	計画策定時		H23年度実績値 (現状)		目標	
				年度	年度	年度	年度		
京丹後市環境基本計画		エコ京都21認定数(循環型社会形成部門)	限りある資源を有効に活用するまち	1事業所	H20	1事業所	H23	3事業所	H30
		リサイクル率		22.1%	H20	18.4%	H23	27%	H30
		環境NPOの数	豊かな財産を環境に生かすまち	4団体	H20	7団体	H23	5団体	H30
		廃棄物系バイオマス利用率		72.9%	H19	72.9%	H19	96.6%	H30
		未利用バイオマス利用率		5.3%	H19	5.3%	H19	36.3%	H30
京丹後市バイオマスタウン構想		廃棄物系バイオマス資源の利活用率	市内で発生する生ごみ、汚泥、廃食用油、家畜排せつ物、廃材等	72.9%	H19	72.9%	H19	96.6%	H25
		未利用バイオマス資源の利活用率	市内で発生する林地残材、竹材、稲わら、穀類等	5.3%	H19	5.3%	H19	36.3%	H25

4 評価結果一覧

DO

CHECK

施策方針	事務事業 事業内容(実績)	担当課	予算額(単位:千円)		事務事業評価結果							施策評価結果			
			H23決算額	H24予算額(一般財源)	根拠法令	単独事業	財政負担	事業種別	対象	実施手法	関与必要性 数値	説明	施策目的	施策貢献度	今後の方向性
1 循環型社会環境の整備	1 リサイクル推進事業 古紙回収団体へ回収実績に応じた補助金を交付(申請件数184件)	市民課	15,623	16,000(6,000)	市規定	含む	単費	サービス	団体	補	2	特定サービス	2	A	現状維持
		環境バイオマス推進課	10,117	-	国規定	-	国・一部	サービス	市民	直・委	3	個性魅力	1	A	終了・廃止 拡大
	資源循環推進事業 平成23年度は、「地域バイオマス利活用促進事業」で実施	環境バイオマス推進課		811(811)											
	3 エコエネルギーセンター管理運営事業【再掲】Ⅱ-② エコエネルギーセンターの管理運営(改修工事19,999千円)	環境バイオマス推進課	20,102	20,103(9,603)	市規定	含む	単費	維持管理	市民	委	3	個性魅力	1	A	縮小
2 循環型産業の育成	事業者の育成のため、情報提供などの支援を行っている(予算を伴わないため調書には非計上)。														
		計	25,740	16,811(6,811)											

※ 合計金額には再掲事業は含んでおりません。

※ 1-2の事務事業は、平成24年度当初予算において分割されていることから、H24予算額及び今後の方向性(施策評価)欄を分割して表示しています。

5. 今後の施策展開について

ACTION

財源が減少していく中で、効率的・効果的に施策を推進するために、どのように施策展開を図っていくのか	No.	歳出抑制の考え方	補完・代替措置などがある場合は、その内容
	1	なし	

予算科目	O4衛生費	O2清掃費	O1清掃総務費	O2リサイクル推進事業	
細事業名	O1 リサイクル推進事業			決算書	P.182
総合計画	基本方針	Ⅱ 環境循環都市	計画項目	④ 循環型社会の構築	
決算額 ①		最終予算額 ②		不用額 (②-①)	執行率
15,623千円		15,653千円		30千円	99.8%
目的	市民のごみ問題への社会意識の高揚及び再資源化を図り、ごみ減量化の促進に資するため、資源として再利用できる古紙等の回収活動を行う団体に対して補助金を交付する。				
主要な事務・事業及び成果の概要	古紙回収を行う共同作業所・小中学校PTA・婦人会等に対し、回収量に応じた補助金を交付することにより、リサイクル意識の向上と古紙の再資源化を進めるとともに、焼却処分するごみ量の抑制を図った。(市内古紙回収登録団体：90団体)				
	○負担金、補助金及び交付金				
	・古紙回収団体補助金 (5円/kg)				15,623 千円
	申請件数(延べ)		184 件		
申請団体数		67 件			
【内訳】					(単位：kg)
年度	新聞紙	段ボール	雑誌	紙パック	合計
H23	1,186,186	792,605	1,124,350	21,565	3,124,706
H22	1,203,260	1,131,230	773,460	20,972	3,128,922
H21	1,222,690	1,173,860	769,430	20,136	3,186,116
主な財源	府補 未来づくり交付金(古紙回収団体補助金)				7,500千円
評価・課題等	○古紙回収登録団体に対し、回収実績に応じた補助金を交付し、リサイクル意識の向上と古紙の再資源化を進めるとともに、焼却処分するごみ量の抑制を図ることができた。 ○焼却施設の処理負担減及び最終処分場の延命化(焼却灰の減量)を図るため、今後もリサイクル意識の啓発や再資源化による古紙の減量に取り組む必要がある。				
事業所管課		市民部/市民課			

予算科目	04衛生費	01保健衛生費	07環境衛生費	12地域バィオマス利活用推進事業	
細事業名	02 地域バィオマス利活用促進事業			決算書	P.174
総合計画	基本方針	Ⅱ 環境循環都市		計画項目	④ 循環型社会の構築
決算額 ①		最終予算額 ②		不用額 (②-①)	執行率
10,117千円		10,127千円		10千円	99.9%
目的	持続可能な循環型社会を目指すため、京丹後市エコエネルギーセンターを活用し、市内の家庭から排出される生ごみの再資源化や液肥を活用した環境保全型農業等を推進する。				
主要な事務・事業及び成果の概要	<p>生ごみの分別・収集方法の検討などをモデル的に実施した。また、液肥の活用に向けて、市内農家等の協力を得て、実証モデルほ場における実証研究を行った。</p>				
	○液肥利用推進シンポジウム（パネラー謝金、費用弁償等）				272千円
	<p>開催日：平成23年12月21日（水） 場所：アグリセンター大宮 多目的ホール 参加者：110人 内容：液肥利用農産物ブランド名発表、基調講演、パネルディスカッション</p>				
	○先進地視察（旅費、バス借上料）				796千円
	<p>開催日：①平成24年2月9日（木）～10日（金）、②平成24年3月13日（火） 視察先：①千葉県香取市、②鳥取県八頭町 参加者：①液肥利用農家等10人、②生ごみ分別地区33人</p>				
	○生ごみ資源化実証（バケツ等消耗品、調査業務委託料等）				2,314千円
<p>対象：6地区194世帯 内容：家庭生ごみを所定の方法で分別収集し資源化する 実績：14.4 t/年</p>					
○液肥利用実証（土壌分析費用、実証研究業務委託料等）				1,506千円	
<p>対象：液肥利用農家38人、49ほ場 内容：栽培データの収集と分析、対象ほ場の土壌分析等</p>					
○地域バイオマス利活用高度化調査				5,229千円	
<p>生ごみの資源化、液肥利用の取り組み等における「循環型社会の形成」、「地球温暖化防止」の事業効果について調査、検討した。</p>					
主な財源	国補	地域バィオマス利活用交付金（10/10）			9,496千円
評価・課題等	<p>○生ごみ資源化実証により、モデル地区住民の意識向上が図られた。 ○液肥利用実証により、液肥の有効性を確認するとともに、農家の液肥に対する理解が進んだ。 ○今後は、生ごみ資源化の対象世帯数を増加させ、市内の資源循環を促進する必要がある。 ○引き続き液肥利用を促進するとともに、液肥利用農産物「環のちから」のブランド化を推進する必要がある。</p>				
事業所管課	農林水産環境部／環境バイオマス推進課				

予算科目	04衛生費	01保健衛生費	07環境衛生費	14IJI社 [®] -センター管理運営事業
細事業名	01 IJI社 [®] -センター管理運営事業			決算書 P.174
総合計画	基本方針	Ⅱ 環境循環都市	計画項目	② 新しいエネルギーの導入と活用
決算額 ①		最終予算額 ②	不用額 (②-①)	執行率
20,102千円		20,111千円	9千円	99.9%
目的	エコエネルギーセンターを生ゴミ再資源化や環境保全型農業の推進など、『環境循環都市』の実現に向けた中核施設として活用するため、施設の維持・管理を行う。			
主要な事務・事業及び成果の概要	○火災保険料		103千円	
	○工事請負費（各設備改修工事・機器オーバーホール）		19,991千円	
	・ガスエンジン発電装置改修工事		9,923千円	
	・排水処理メインプロワ改修工事		1,159千円	
	・投入液破碎ポンプ改修工事		1,881千円	
	・その他改修工事（15件）		7,028千円	
	≪施設運営状況≫			
	見学者数	市内	158人	
		市外	221人	
		国外	5人	
	合計	384人		
原料受入量	6,386 t			
発電量	730,455kWh			
売電量	10,511kWh			
液肥利用量	1,845 t			
主な財源	府補	未来づくり交付金（液肥製造施設整備事業）	3,300千円	
	市債	IJI社 [®] -センター整備事業債（未来づくり資金）	8,900千円	
評価・課題等	○施設の適切な管理運営のため、コスト削減に留意しつつ、必要な機械設備の改修を行うことができた。 ○引き続き、計画的かつ効率的なセンター運営を進めていくことが必要となる。			
事業所管課		農林水産環境部／環境バイオマス推進課		